

地域の持続のかたちを考える

一千年を生き続けた知恵を活かし、ふるさとの暮らしを未来につなげるために

地方の小都市や農山村の生き残り策が活発だ。地域おこし協力隊、ふるさと納税、移住定住促進、地域紹介動画でのアピール。あるいは世界遺産や日本遺産、重要文化的景観といった価値評価への熱も高い。これらは加速する人口減少と超高齢化による地域存続の危機感に根ざしている。一方こうした地域とは、遡れば数百年、ときに千年にわたって人々が生活を営み続けてきた場所でもある。環境に適合しつつ改変することで生計を立て、コミュニティを形成して人々は生き続けてきた。伝統的集落や農山村で出会う風景と人、つまりふるさとの魅力は、その延長線上にある。本シンポジウムでは、中山間地域を主たる対象として、今現在からうじて存続している生きる力に満ちた地域の価値と知恵を読み取り、未来につなげていくための地域づくりの実践知を議論する。短期的競争による生き残りではなく、地域の真の価値に根ざしたプライドある主体による、ダイナミックな地域の持続のかたちを考えていきたい。

日時 2017年7月16日(日) 10:00-18:00

会場 早稲田大学国際会議場・井深大記念ホール (東京都新宿区西早稲田1-20-14)

資料代 一般¥2,000 / 早稲田都市計画フォーラム会員¥1,000 / 学生無料

プログラム

10:00	オープニング	佐々木葉	早稲田大学	創造理工学部社会環境工学科	教授
10:10	基調講演 千年続いた二つのムラ 一宇佐宮領豊後国田染荘と 東大寺領美濃国大井荘の場合一	海老澤 衷	早稲田大学	文学部	教授
11:00	セッション1 環境のかたち 山のプリコラージュ しなやかな強さを持つ暮らしのかたち 一洪水と共生する集落 自然と文化を連携して考える 一国際的な試みの現在	コーディネーター 山口敬太 石川 初 二井昭佳 稲葉信子	京都大学 慶應大学 国土館大学 筑波大学	工学研究科 環境情報学部 理工学部まちづくり学系 人間総合科学研究科世界遺産専攻	准教授 教授 准教授 教授
13:30	セッション2 生計のかたち シンボルとしての空石積み 千年村のBuildinghood 一暮らしと住まいのかたち 地方移住の現代的意義	コーディネーター 星野裕司 真田純子 中谷礼仁 嵩 和雄	熊本大学 東京工業大学 早稲田大学 NPO法人ふるさと回帰支援センター	くまもと水循環・減災研究教育センター 環境・社会理工学院 創造理工学部建築学科	准教授 准教授 教授 副事務局長
15:10	セッション3 主体のかたち 役場から見た「主体」のあり方 「日本版シティマネージャー制度」非常勤派遣者として 原発被災後の復興まちづくりの主体 地域の持続と風景・ガバナンスの動態 一小規模自治体の事例から	コーディネーター 福島秀哉 山本慎一郎 窪田亜矢 山田圭二郎	東京大学 一般社団法人RCF(兼)茨城大学社会連携センター顧問 東京大学 金沢工業大学	工学部社会基盤工学科 都市工学科 環境・建築学部	助教 教授 教授 准教授
16:50	統括セッション	海老澤衷・佐々木葉・中谷礼仁(いずれも前掲)			
18:00	懇親会	終日ロビーにて関連するフィールドでの調査結果などのポスター発表			

申し込みはWeb サイトから「早稲田都市計画フォーラム シンポジウム」で検索

【お問い合わせ先】

早稲田大学大学院 創造理工学研究科 建設工学専攻 景観・デザイン研究室 修士1年 小澤 広直 Hironao KOZAWA
E-mail: yohlab2003@gmail.com TEL/FAX: 03-5286-3989